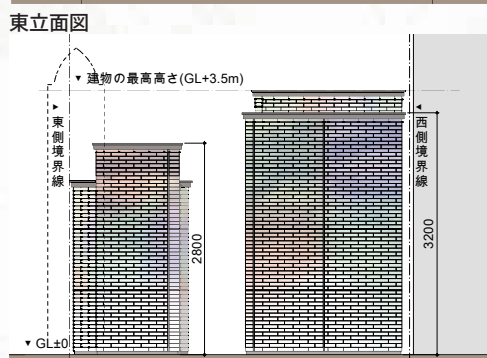
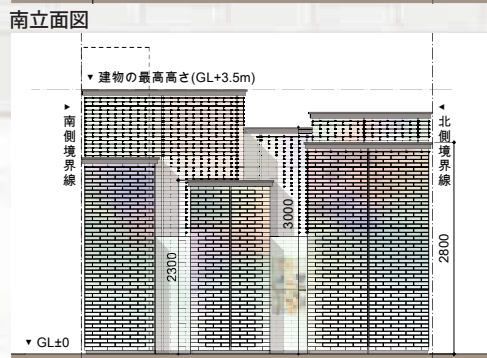
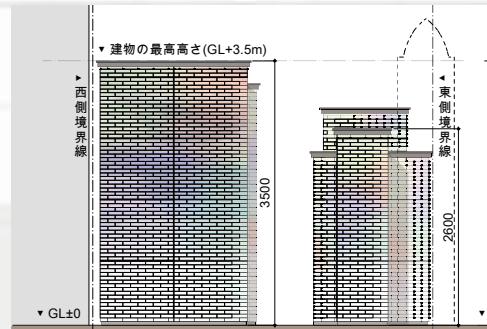


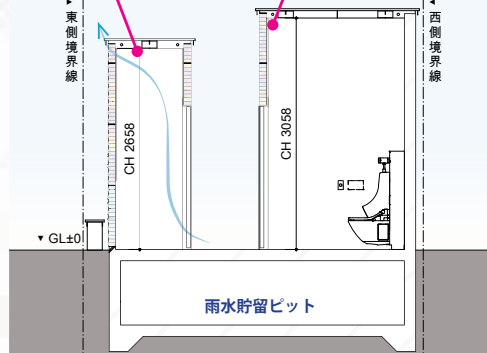
個の集合体が創る新しい公共性

■立面図 / 断面図 S=1:50(A3 S=1:100)

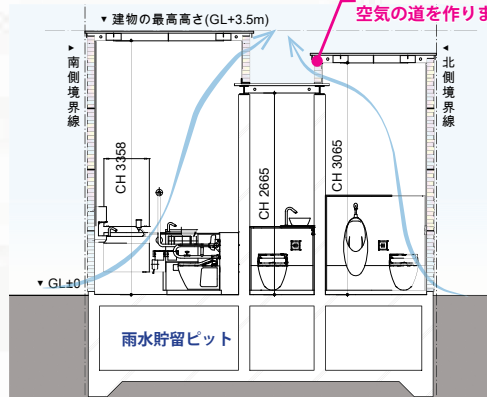


ガラスの熱で空気を温め、
換気を促します

ガラスは臭気の吸収が少なく
トイレを清潔に保ちます



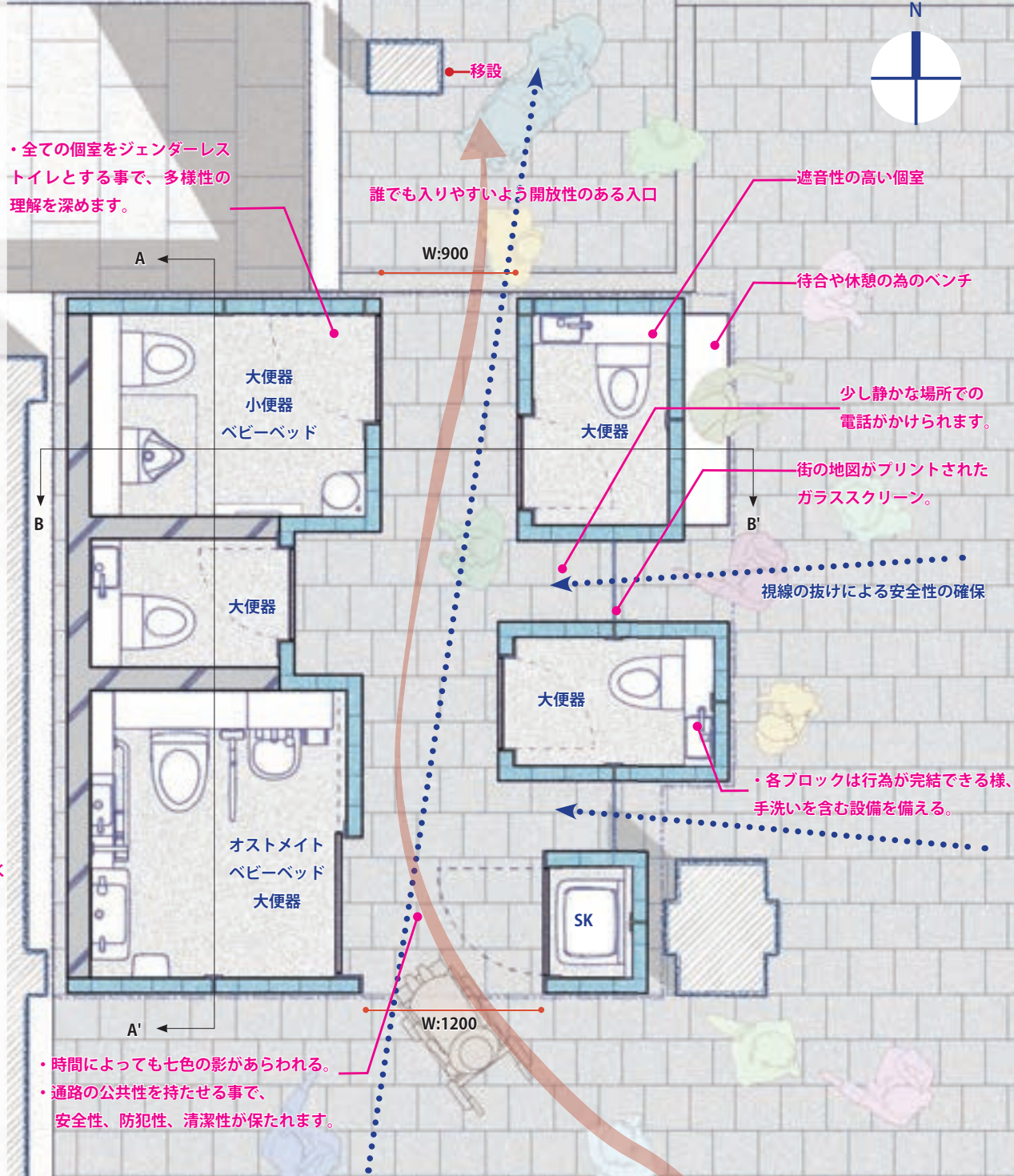
各個室の高さ操作し
空気の道を作ります



B-B' 断面図

さまざまな情報の発信受信が可能な社会となり、価値の多様性が広がる社会における公共空間としてのトイレは、これまでの様式（価値）ではなく新たな様式が求められると考えます。都市空間の中で最も多様性が失われる公共トイレという環境が新しい価値や多様性に寄り添う環境となることで、人々に新たな価値を理解し、広げていく起点となる場所を作りたいと考えます。

■平面配置図 S=1:20(A3 S=1:40)



■計画概要

建築面積	11.36㎡
延床面積	11.36㎡
主要部分の床面積	11.36㎡
構造	鉄骨，一部 RC 造
最高の高さ	3.5m

■仕上げ表

外壁	ガラスレンガ 一部ダイクロミック仕上げ
屋根	銅板の上塗熱塗装仕上げ
床（外部）	石貼り舗装仕上げ
床（内部）	モルタル金鍍て仕上げ
天井（内部）	断熱ボードの上塗装仕上げ

■概算工事費

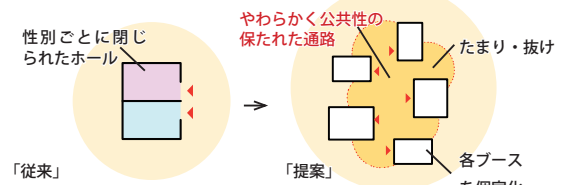
項目	金額（千円）
・解体復旧費	1,500
・建築工事費	
主体工事費	26,200
外構工事費	1,800
・設備工事費	
機械設備費	5,500
電気設備費	2,400
・諸経費	
共通仮設費	2,848
現場管理費	1,068
一般管理費	3,560
合計	44,876

・通過可能な動線を確保することで
裏となるような空間をなくします。

・通過動線は、風の通り道にもなり、
空気が籠ることなく流れる計画とします。

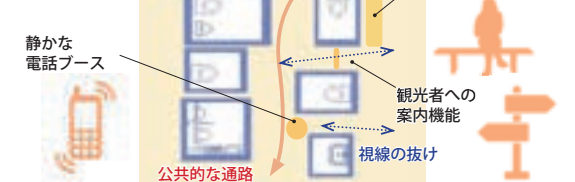
・ホールを開き人が集まる公衆トイレ

全てのブースを個室化し、ジェンダーレスな利用を可能とします。これら個性豊かなブロックが寄り添うように集まった個の集合体によって新しい環境を作ります。



・新しい公共空間としての通路

ブロック同士の通路空間は、新しい公共空間となります。都市の公共空間の中にある柔らかく閉じられた公共空間が新しい使い方を生み出します。



・性別ではなく設備で選択する個室

開かれた公共性が問われる世の中においてトイレの中は唯一プライバシーの守られた場所と言えます。ガラスレンガにより、緩やかな外とのつながりを持ちつつ各々の個性に合わせて選択できる一人ひとりの居場所を創ることで新しい公共性を作り出します。

・まちの行燈としての箱

ガラスレンガで作られる箱は、防犯性と認知性を高める光る行燈となり、道頓堀の新しいシンボルであり、スポットとなります。利用時と未利用時で光量を変化させ、省エネと利用状況の把握が可能です。

・ジェンダーレスな新しいサイン

設備で個室を選択する新しい時代のトイレとして、これまでのようにジェンダーに偏ったサインではなく、設備の記号を個室ごとのサインとする新しいサイン計画とします。



設備で個室を選択



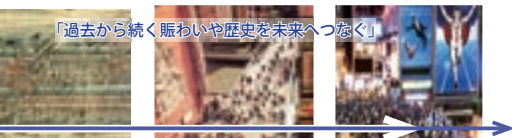
個室のサインは設備による表記



■新しい公共性を発信する街のシンボルとしての環境オブジェ

・過去と未来をつなぐオブジェ

道頓堀は古くは江戸時代から芝居小屋や芝茶屋として栄え、現在の大阪のエンターテインメントシティとしての地位を確立した中心地といえます。またそこに架かる戎橋は今宮戎への参道となっており、日本文化に寄り添いながら長い歴史を紡いできた場所と言えます。



現在のこの場所は、よりイベント性の高い場所となっており、インパウンド、遠方からの旅行者、地域住民など年齢層も含め多様な人々が集まる賑わいスポットとなっています。この場所に新たに作られるトイレは、街の歴史を感じることができる意匠性、多様な人を受け入れる公共性、安全性、まちを象徴するオブジェとなるべきだと考えます。

・街を象徴する素材

積層されたガラスレンガによる箱は道頓堀川の揺らぎを表します。日中は道頓堀の賑やかな風景を抽象的に映し出し、街との一体感を高めます。箱の上部にはダイクロミック加工を施し、ジェンダーレスを表現するレインボーフラッグの役目として、また、カラフルな街を抽象的に表現します。

まちの中で引き立つシンブルな形状



シンブルな輪郭

光の変化が時を表現するダイクロミック加工（一部）



レインボーフラッグを表現

既存親柱の石積みパターン引用による環境の調和



既存の柱頭

ガラスレンガ

・未来を見据えた SDGs への対応

・耐久性、防汚性、防臭性の高さで高いサイクル性を持つ副資材のないガラスレンガの採用
・自動調光による省電力な照明計画
・周辺雨水による洗浄水利用